



## キャリア教育アンケート

高校や大学を卒業しても就職することなくフリーターとなったり、あるいは働かずに親に寄生するNEET（無業者）と呼ばれる若者が急増している。こうした現象は、若者が自分の将来に対して明確な目的が持てず、勤労意欲が低下していることに原因があると思われるが、それを解決するための手段として、職業観を育成するためのキャリア教育のプログラムを導入する学校が増えてきた。そこで、学校におけるキャリア教育の現状はどうなっているか、そして先生方はどのような考えを持っているのか、学びの場.com ではキャリア教育についてインターネットによるアンケート調査を行った。

- 1) 調査は、財団法人社会経済生産性本部の依頼により学びの場.com でアンケートフォームを作成し、学びの場.com 読者に対して行いました。
- 2) アンケート結果のソースデータ（数値統計情報）の著作権は、財団法人社会経済生産性本部に帰属します。
- 3) 本文の著作権は、学びの場.com に帰属します。

### 【 調査対象 】

小学校、中学校、高等学校の教員

### 【 調査方法 】

学びの場.com のサイト上で告知されたアンケートフォームを通じて、必要事項をアンケートフォームに入力してもらった上で送信してもらうという形式がとられた。

### 【 回等者数 】 小学校、中学校、高等学校の教員 183 名

校種別内訳

	合計	小学校	小中一貫校	中学校	中高一貫校	高等学校	無回答
全体	183	83	3	50	8	38	1
	100%	45%	2%	27%	4%	21%	1%
	小中一貫校 3名内訳 (3名共中学校)						
	中高一貫校 8名内訳 (4名中学校、4名高等学校)						



進路指導担当かどうか

	合計	進路指導 担当である	進路指導担当 ではないが指 導は行う	進路指導は 行っていない	無回答
全体	183	28	70	84	1
	100%	15%	38%	46%	1%
小学校	83	3	16	64	0
	100%	4%	19%	77%	0%
中学校	57	12	33	12	0
	100%	21%	58%	21%	0%
高等学校	42	13	21	8	0
	100%	31%	50%	19%	0%
無回答	1	0	0	0	1
	100%	0%	0%	0%	100%

【 調査内容 】

- ・失業率やフリーターの増加を問題だと思うか
- ・キャリア教育の実施は必要か
- ・キャリア教育に効果的なものは何か
- ・キャリア教育は、どの教科・活動での実施が適切か
- ・キャリア教育の費用負担はどのような形が適切か
- ・キャリア教育の実現には学校と特定企業との連携は必要か
- ・キャリア教育の課題とは何か
- ・学校ではどのようなキャリア教育が行われているか

【 調査期間 】

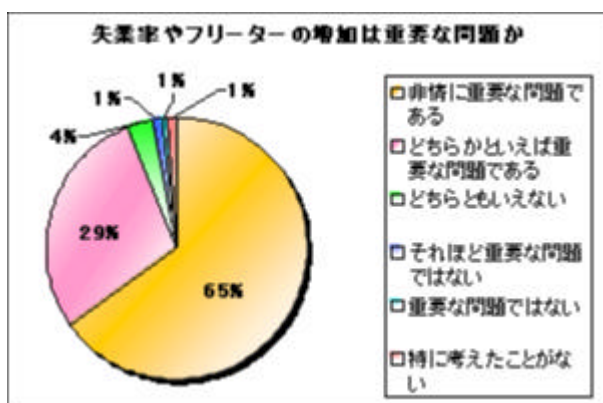
2004年2月19日～3月14日

今回のアンケート調査の回答数は全部で183件、その内訳は小学校83件、小中一貫校3件、中学校50件、中高一貫校8件、高等学校38件、無回答1件であった。子どもの将来に関わるテーマということで、中学校や高等学校の場合、進路指導担当者もしくは進路指導担当でなくても指導を行っているという先生からの回答が8割を超えた。やはり先生方にとって若者の職業観が低下していることは重要な問題となっているようで、すでにキャリア教育のプログラムを実施しているという学校も多い。さすがに小学校ぐらいでは校外学習の一環で工場見学をするといった程度だが、中学校や高等学校になると企業や商店街への勤労体験学習を行っている学校も少なくなかった。ただし、通常の授業だけでも忙しい学校の先生にとって、特別なプログラムとなるキャリア教育を実施することは、負担となっているようで、時間と人手を確保するためにも、予



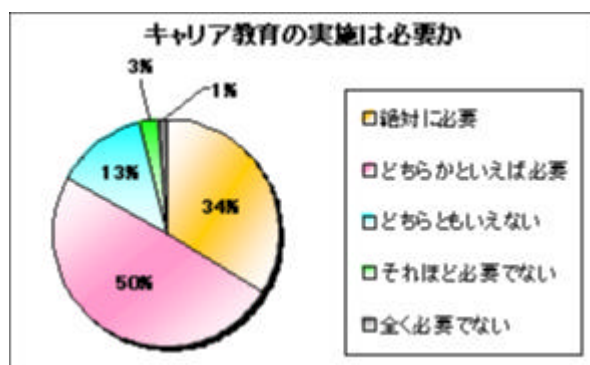
算措置なども含め、行政の協力を望む声も多い。また、スタートしたばかりのキャリア教育は、残されている課題も多いようで、プログラムの内容を充実させていくためにも、学校と企業の連携が求められているようである。そのため教育現場に一般の企業が関わってくるといったことも考えられるが、そうしたことに対する抵抗は少なく、プログラムを成功させるためにも協力を図っていければというのが大方の意見のようである。

**Q1 失業率や自発的離職者（フリーター）数は年々増加していますが、こうしたことは重要な問題だと思いますか？**



回答を見てみると、失業率やフリーターの数が増えていることを重要な問題としてとらえる先生は多く、全体で 183 件の回答のうち、「非情に重要な問題である」との回答は 65%にあたる 119 件、「どちらかといえば重要な問題である」との回答は 29%にあたる 53 件と、その合計は 172 件で 94%にも上った。この数値は回答者が進路指導担当であるか無いかに関わらず高くなっており、その関心の高さがうかがえるものとなった。

**Q2 キャリア教育の実施は必要だと思いますか？**

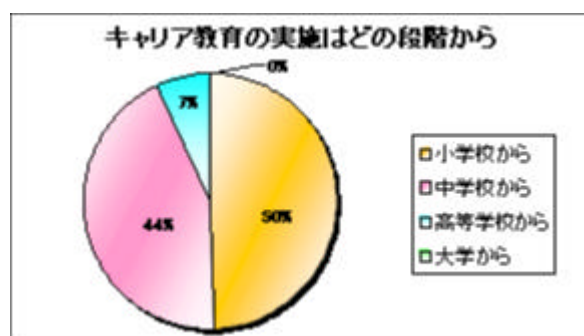


キャリア教育の実施が「絶対に必要である」との回答は全体の 3 割程度で、キャリア教育が学校にとって必須なものとして考える先生の数、それほど多いものではない。「絶対に必要である」と回答したのは、進路指導担当や進路指導担当ではなくても指導を行っている先生が 40% 前後であったのに対し、進路指導を行っていない先生は 26%であることから、そこには多少の



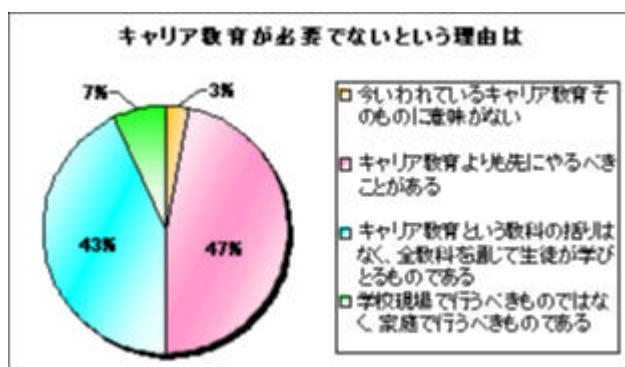
意識の差が見られる。ただし、進路指導を行っていない先生でも約半数は「どちらかといえば必要である」と答えており、「それほど必要でない」「全く必要でない」との回答が、5%程度に過ぎなかったことから、機会さえあればキャリア教育に取り組んでみたいと考えている先生が多いようである。

**Q3 キャリア教育はどの段階から実施すべきだと思いますか？(Q2で「絶対に必要である」「どちらかといえば必要である」と回答した人のみ)**



キャリア教育を実施する段階については「小学校から」という回答が全体の半数にあたる50%、そして「中学校から」という回答が44%となり、早い段階からの実施を望むという回答で大半を占める。「高等学校から」という回答は7%に過ぎず、「大学から」という回答になると、すでに遅すぎるということからか1件も無かった。回答を校種別に見た場合、小学校と中学校は全体と大きな差は見られなかったが、高等学校からの回答では、「小学校から」実施すべきというものが39%と全体より少なく、「中学校から」という回答が49%と高くなっている。「高等学校から」実施という回答も12%と高くなっているが、キャリア教育の早期実施を望む回答が圧倒的に多いということには変わらないようである。

**Q4 キャリア教育が必要でないと考える理由は何ですか？(Q2で「それほど必要でない」「必要でない」と回答した人のみ)**

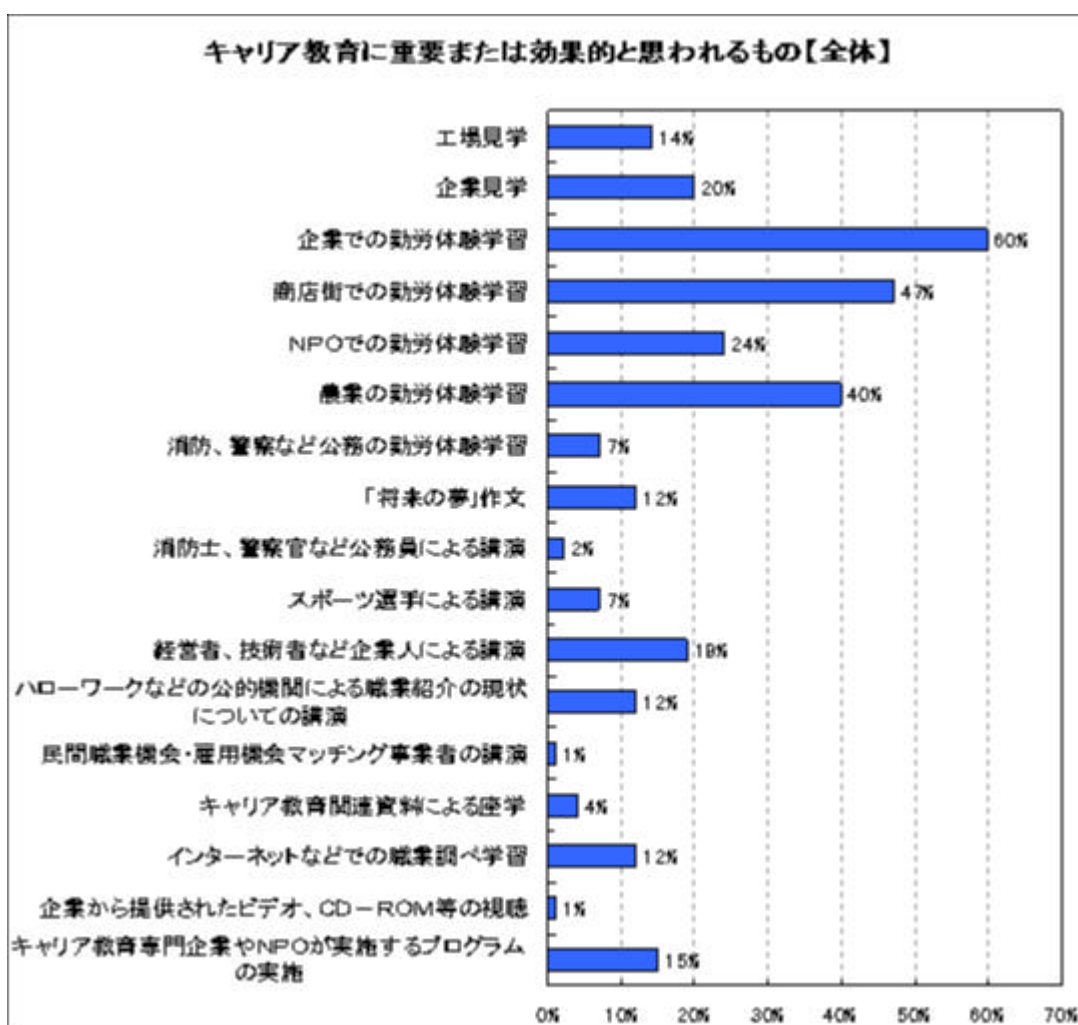


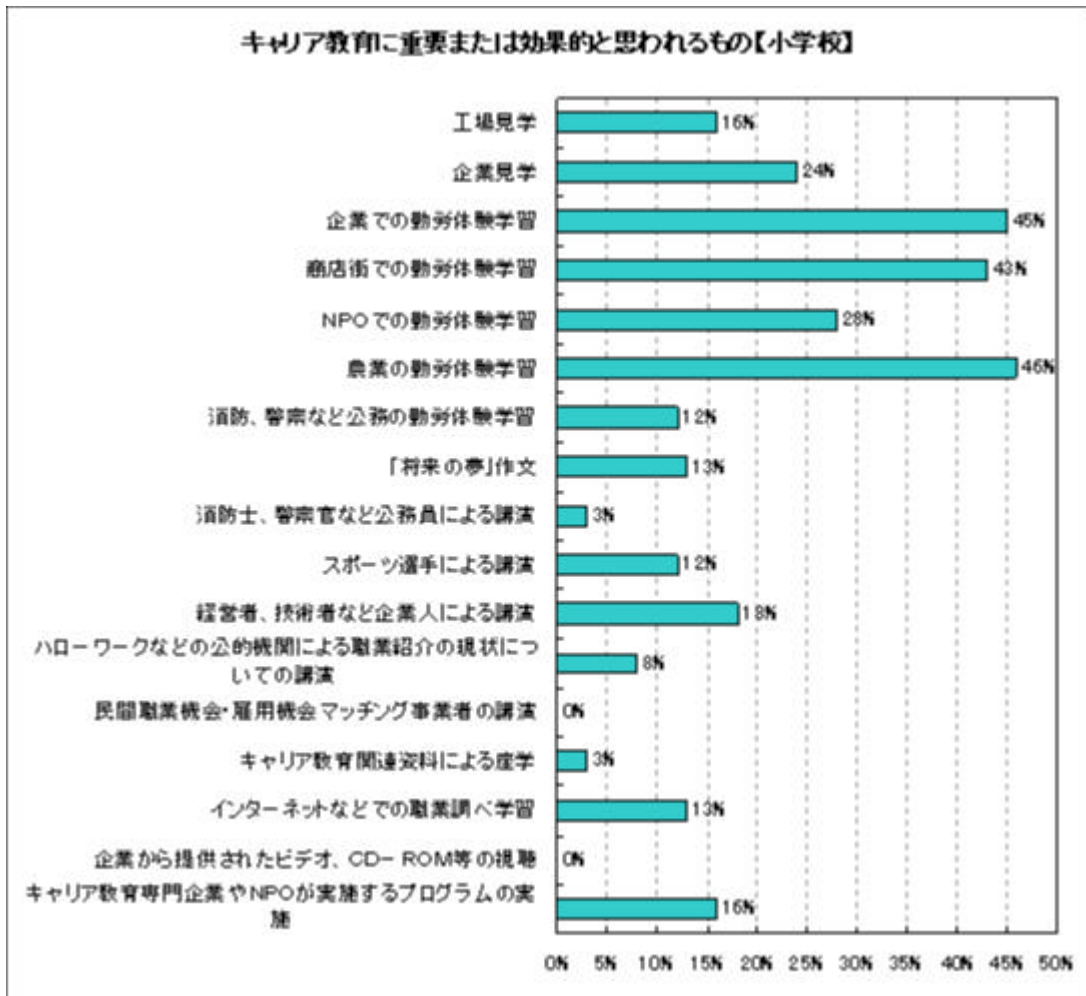
キャリア教育に関して、「それほど必要ではない」「必要ではない」と回答したのは合わせても



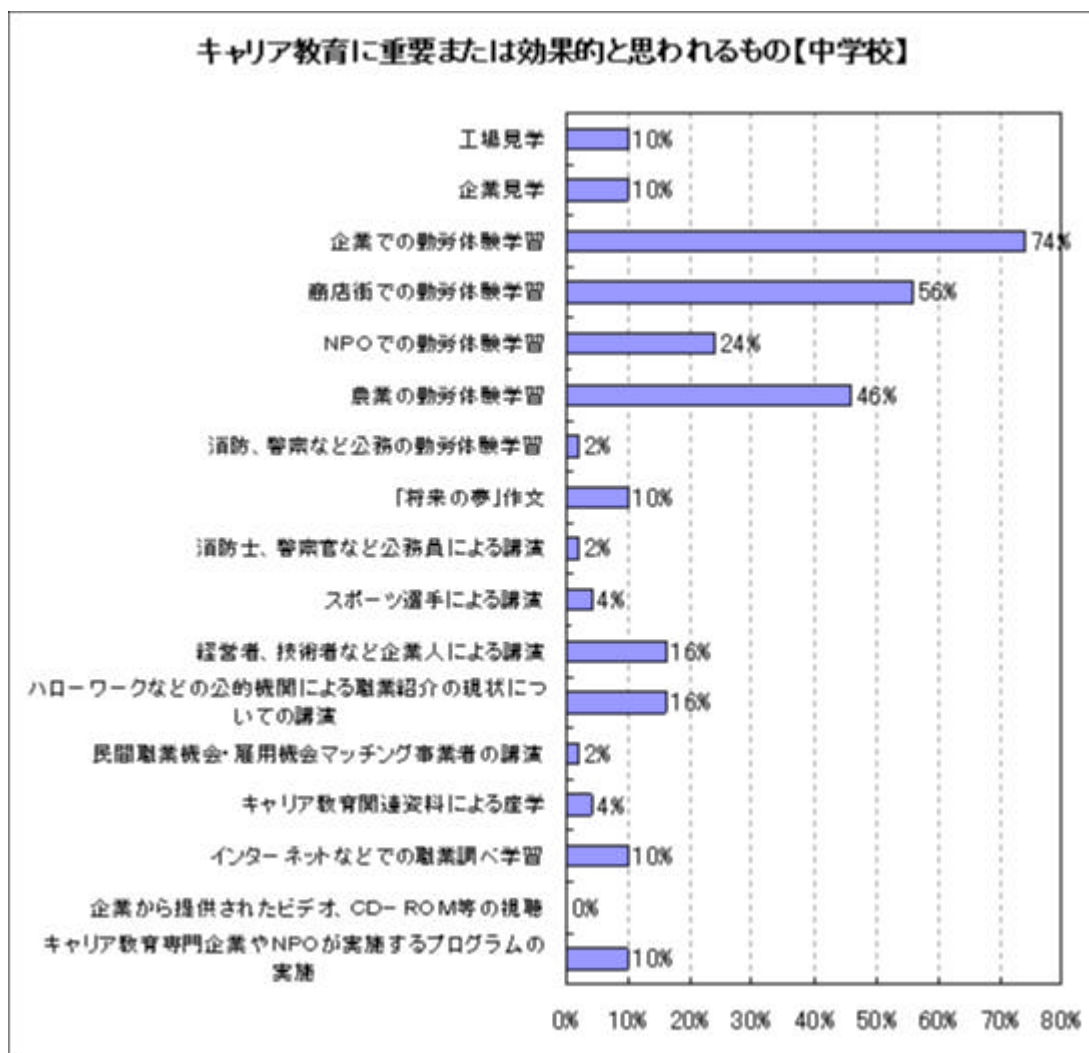
30 件にしか過ぎないので、それほど母数も大きなものではないが、その中でも最も多かった理由が、「キャリア教育よりも先にやるべきことがある」で 14 件の 47%。実際の教育現場ではやるべきことが多く、キャリア教育にまで手が回らないという現状が見うけられる。次いで多かったのが「キャリア教育という教科の括りはなく、全教科を通じて生徒が学びとるものである」が 13 件の 43%で、通常の授業の中でキャリア教育を身に付ければ良く、特別な授業を設ける必要は無いとの意見だった。この 2 つの理由で大半を占めており、「今いわれているキャリア教育そのものに意味が無い」とするものは、1 件だけであった。

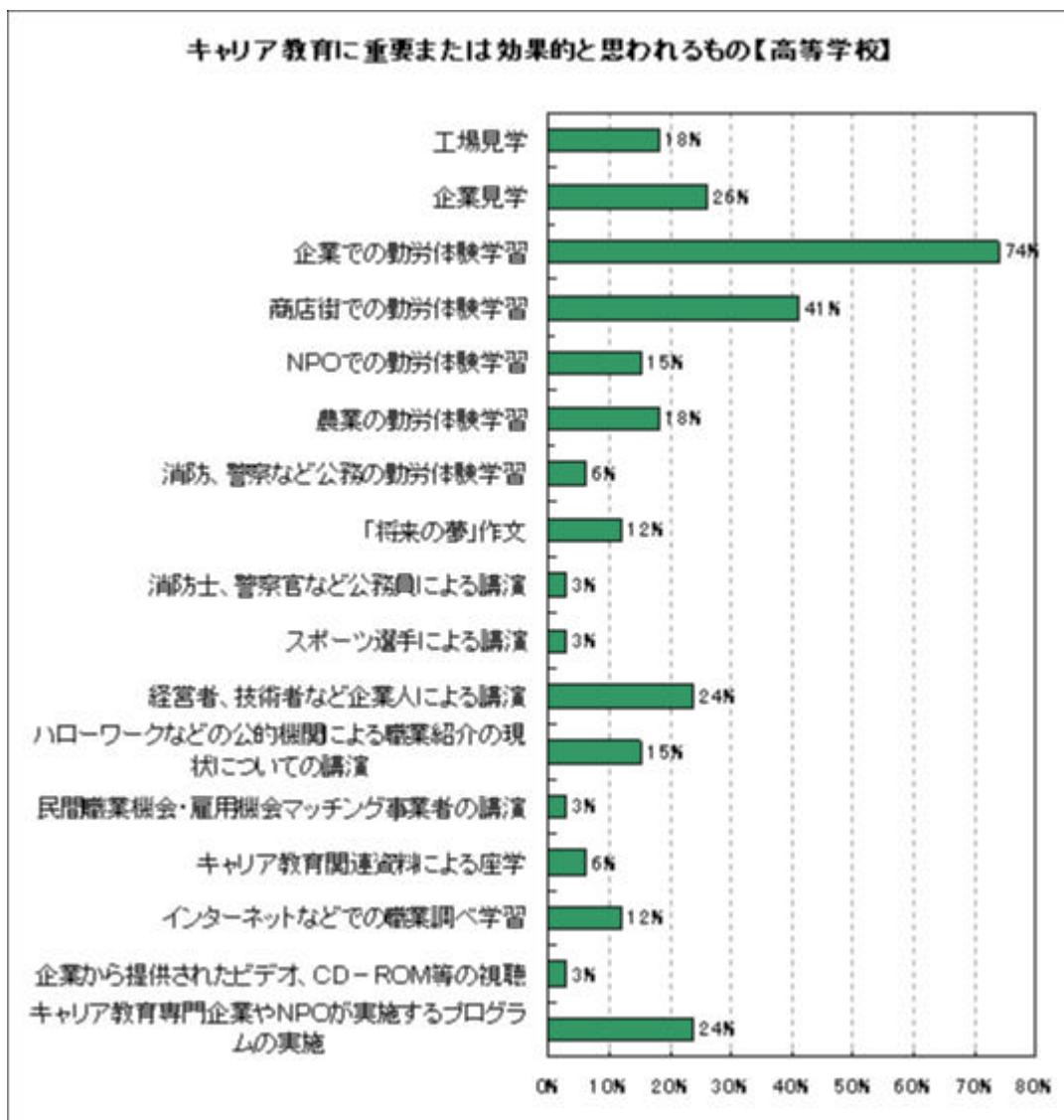
Q5 キャリア教育として重要または効果的と思われるものは何ですか？（3つ選択）









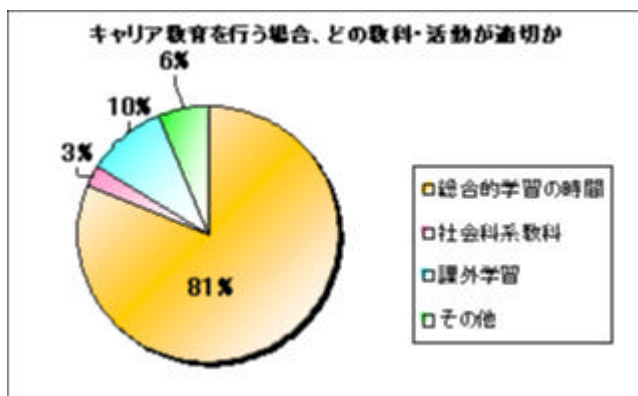


キャリア教育として効果的だと思われるものは何かを3つ選んで回答してもらったところ、圧倒的に多かったのは「企業での勤労体験学習」で、全部で161件の回答のうち60%にあたる97件の回答が得られた。次いで「商店街での勤労体験学習」76件(47%)、「農業の勤労体験学習」65件(40%)、「NPOでの勤労体験学習」38件(24%)と続き、学校の外に出て実際に何かを体験させるものが効果的という意見が多く見られた。これを校種別に見てみると、小学校では企業訪問にはまだ早いという理由からか、中学校や高等学校で圧倒的に多かった「企業での勤労体験学習」が低くなっており、「農業の勤労体験学習」(46%)、「企業での勤労体験学習」(45%)、「商店街での勤労体験学習」(43%)の3つが、ほとんど同じ値で肩を並べている。中学校と高等学校では「企業での勤労体験学習」が74%で圧倒的に多くなっており、高等学校の場合は「農業の勤労体験学習」が18%と低いものとなっているのが特色である。また、高等学校になると「ハローワークなどの公的機関による講演」(24%)や、「キャリア教育専門企業やNPOが実施するプログラム」(24%)なども、小学校や中学校と比べて高い数値となっている。



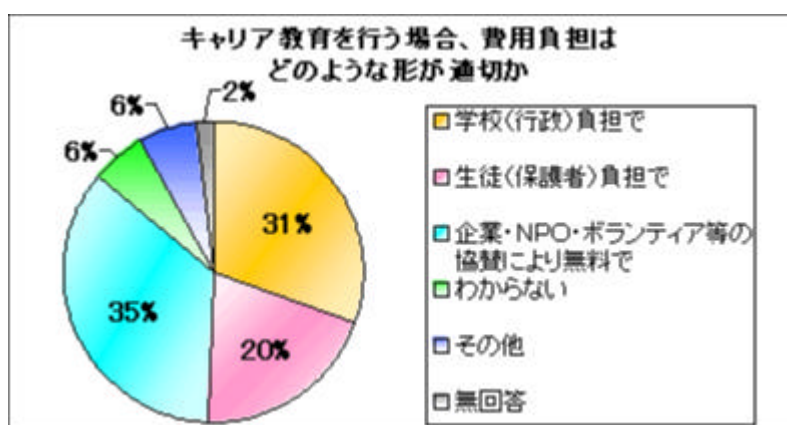


Q6 キャリア教育を行う場合、どの教科・活動での実施が適切だと思いますか？



キャリア教育を行う場合は、「総合的な学習の時間」が適切だとする回答が、全体で 183 件の回答のうち 81%にあたる 148 件となり大半を占めた。これは校種に関わらず、いずれも 80%前後の高い数値となっている。ただし、高等学校では「課外学習」でキャリア教育を実施するのが適切だとする意見も 19%に上っている。また、その他の意見として自由記述で書かれた中には、「すべての教科にわたってスキルを意識した授業を行うべき」「教科の枠にかまわずに、自分の夢やなぜ働くべきかなど全人的な育成を目指すべき」といったように、教科の枠を越えてスキル教育を行うべきであるという意見も見られた。

Q7 キャリア教育を行う場合、費用負担はどのような形が適切だと思いますか？

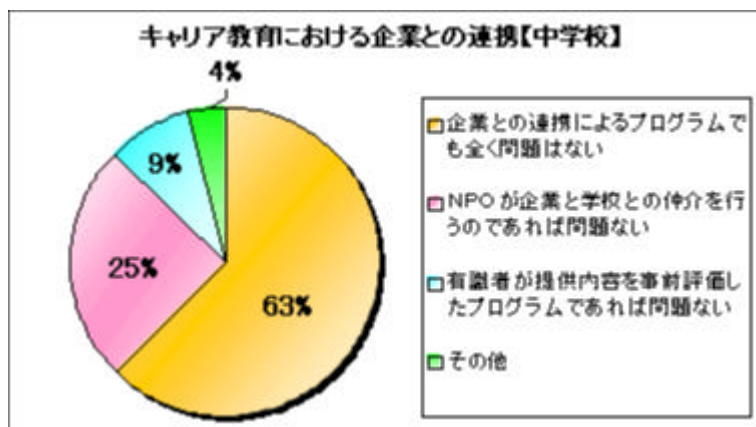
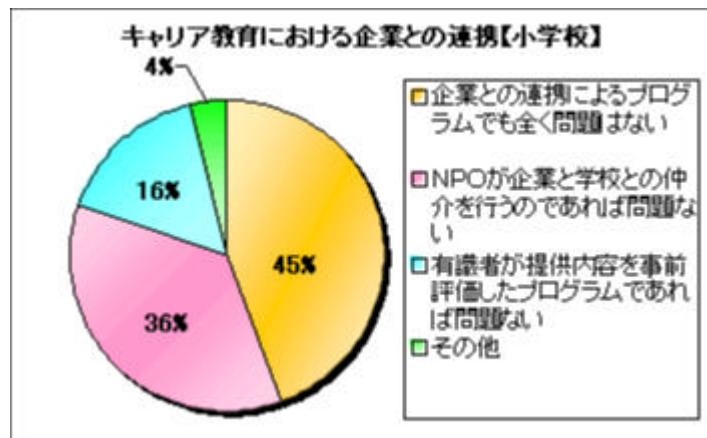
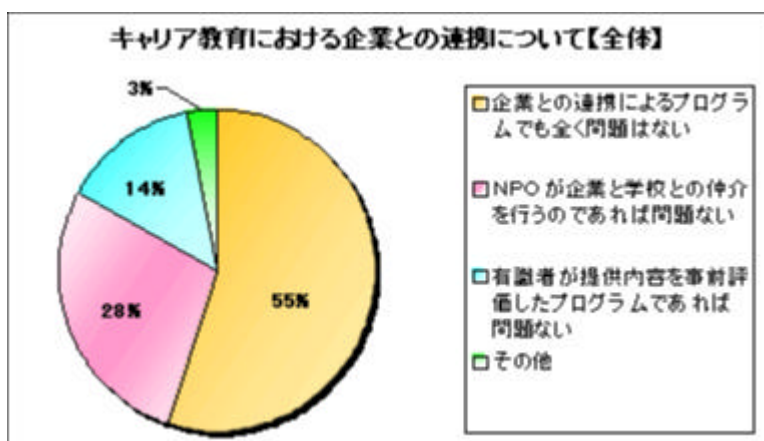


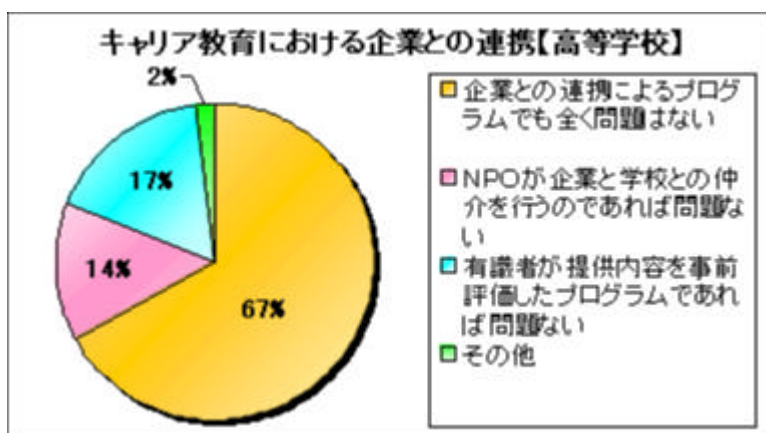
キャリア教育の費用の負担は「企業・NPO・ボランティア等の協賛により無料で」を望む意見が最も多く、183 件の回答のうち 36%にあたる 66 件となった。ただし、「学校(行政)で負担」すべきという意見も 56 件(31%)あり、この2つには大きな差は見られなかった。「生徒(保護者)負担で」という意見も 36 件(20%)見られることから、どこが費用を負担していくべきかは、今後の課題として残される。また、その他の意見の中には、「行政と生徒両方が負担」、「行政、生徒、企業等で分担する」といったように、どこか1つが負担を背負いこむのではなく



連携していくことが大切といった意見もあった。いずれにしても「企業などの協賛で費用負担を軽減しながら、不足分を行政が負担すべき」といった回答も見られるように、キャリア教育の実施に向けて、行政に費用的な協力を望む声は少なからずあるようである。

Q 8 キャリア教育の実現に向けて、学校と企業が連携を図る必要が生じた場合に、あなたのお考えは？

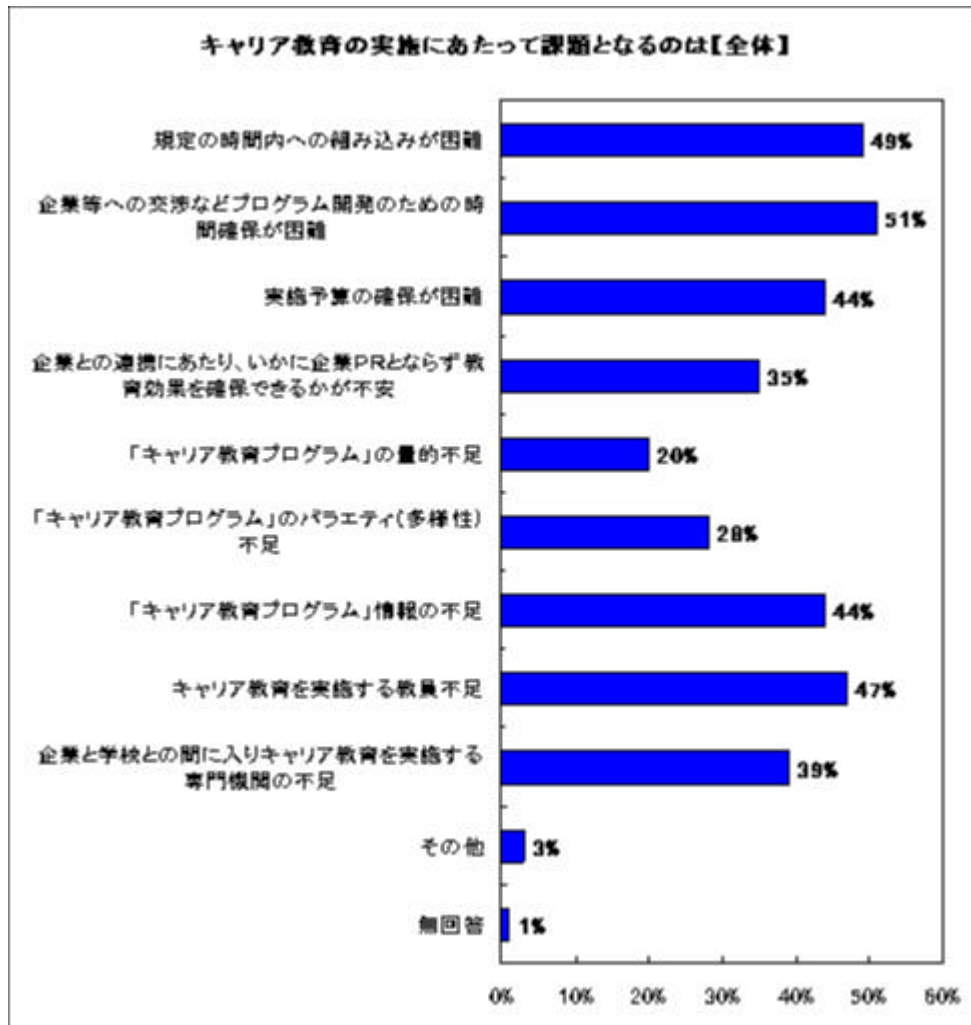


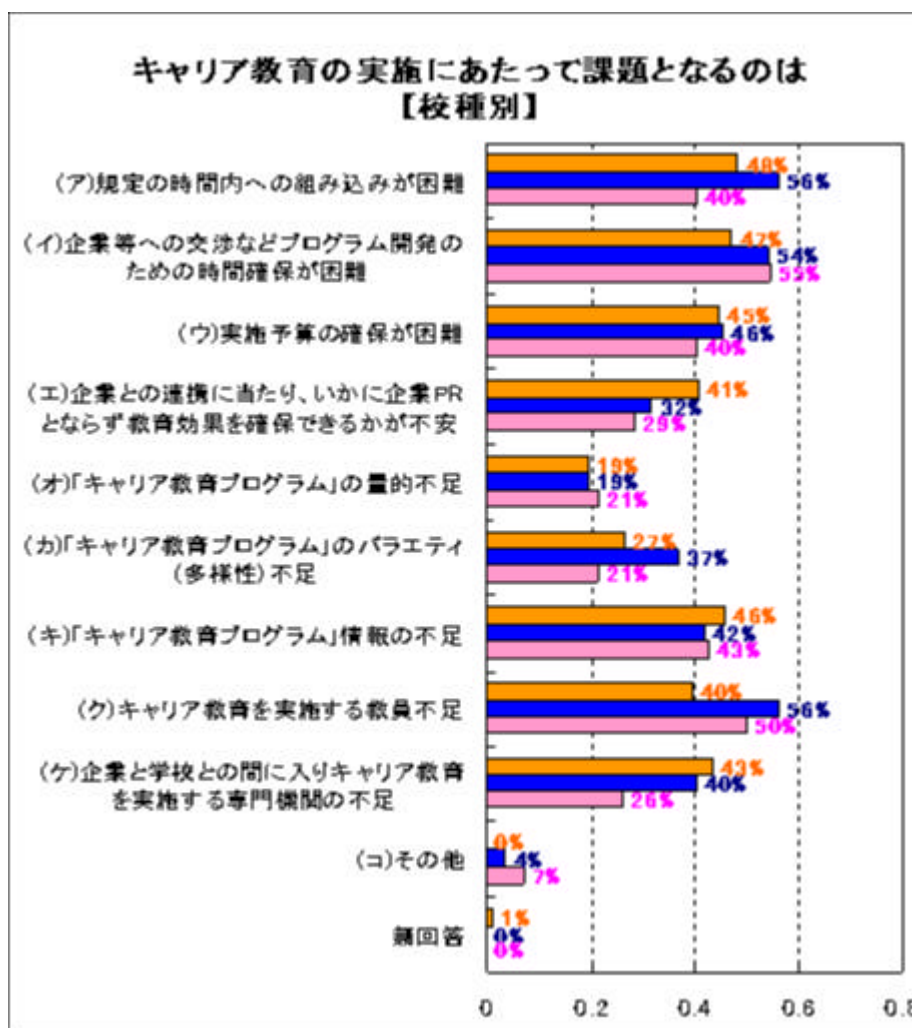


キャリア教育を学校で実施するのに際して、企業と連携することについて「全く問題ない」とするのは、全体で183件の回答のうち約半数にあたる101件で55%となった。無条件で企業の協力を受け入れることに関しては抵抗を感じるということからか、「NPOが企業と学校との仲介を行うならば問題ない」とするのが55件の28%、「有識者が提供内容を事前評価したプログラムであれば問題ない」が25件の14%となり、信頼のおける第三者が橋渡したり吟味した上でプログラムの導入を望む声もある。校種別に見ると、学年が下がるほど、企業との連携によるプログラムに対する抵抗があるようで、「全く問題はない」との回答は、小学校45%、中学校63%、高等学校67%となっており、小学校では企業との連携に対して慎重な様子が見られた。また、「学校と企業が連携して行うが、内容については学校が設定する」「学校と企業との事前の打ち合わせを充分にする」といった意見もあり、学校と企業だけでプログラムを進める場合でも、学校側がしっかりと内容をチェックする必要性を感じているようである。



Q9 キャリア教育実施にあたって課題として想定されることは何ですか？（複数回答可）



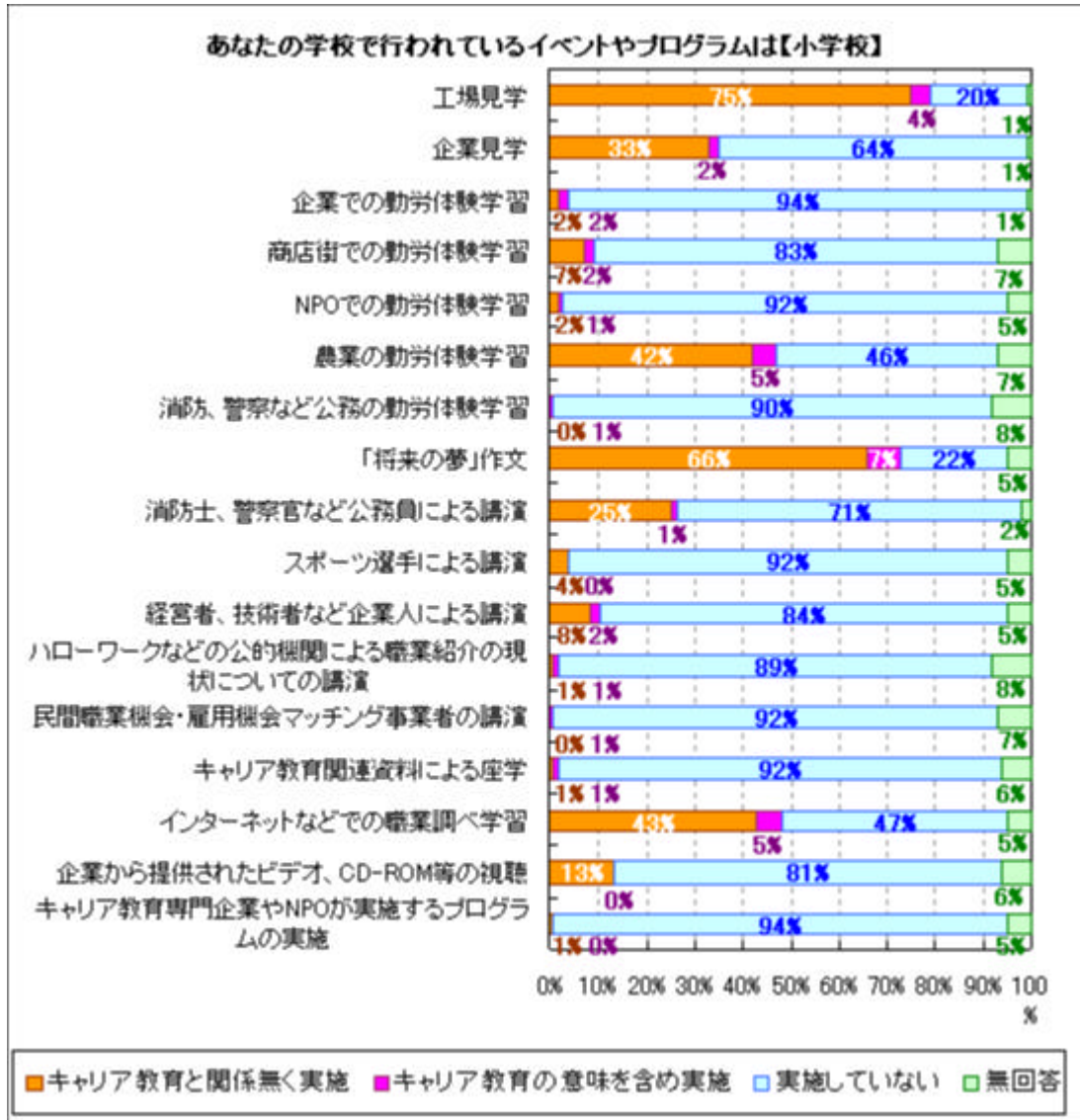


キャリア教育を実施するにあたって課題となるものとして、最も回答が多かったのが、「企業等への交渉などプログラム開発のための時間確保が困難」の 94 件で、全体の回答の 51%にあたる。次いで「規定の時間内への組み込みが困難」の 89 件で 49%。こうしたことから、プログラム開発に向けて準備を進めたり、実際に授業に取り入れていくためには、絶対的な時間が足りずに困っているという先生の様子が見えてくる。また、「キャリア教育を実施する教員不足」との回答も 86 件 (47%) と、次いで高くなっている。特に中学校では、上記 3 つの回答数が高いことから、キャリア教育を実施したくても、時間と人手が足りないという現状が見て取れる。





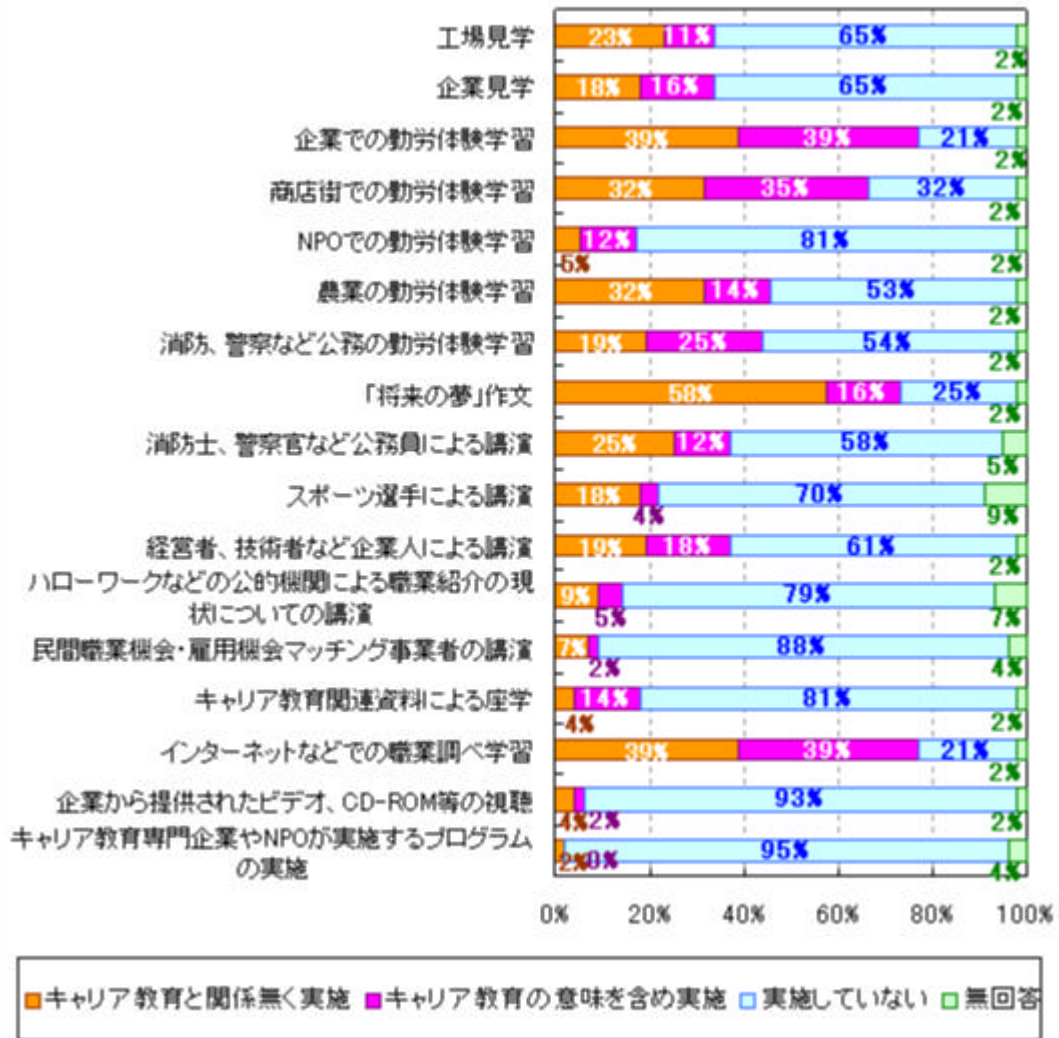
Q10 どのようなイベントやプログラムを貴校では実施されていますか？（複数回答可）

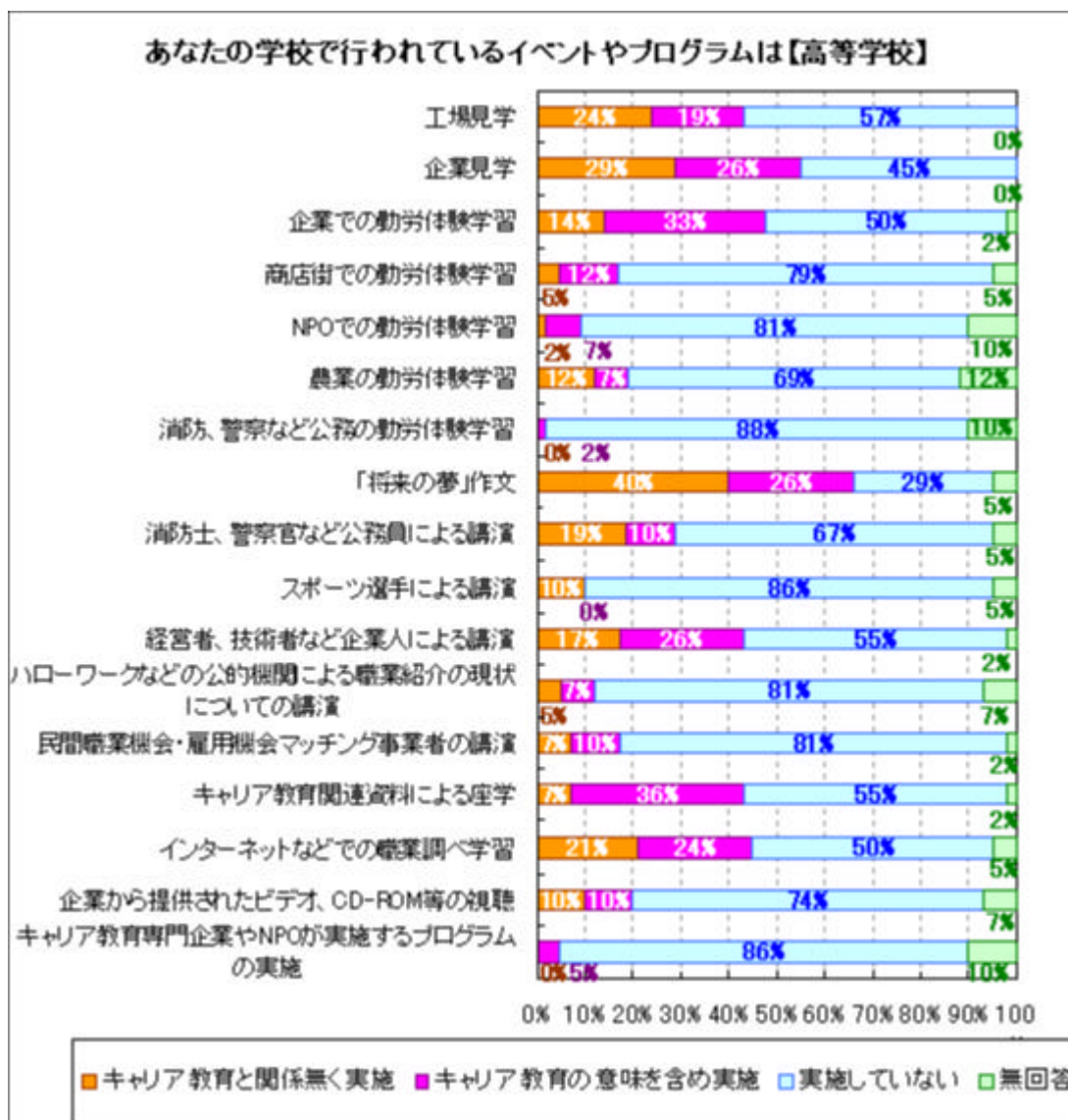






あなたの学校で行われているイベントやプログラムは【中学校】





まず小学校の先生からの回答を見た場合、「工場見学」と「『将来の夢』作文」が群を抜いて実施されており、この2つのプログラムは、「キャリア教育と関係なく実施」「キャリア教育の意味を含め実施」の回答を合わせると、70%を超えるものとなっている。その他の回答では「インターネットなどでの職業調べ学習」(48%)、「農業の勤労体験学習」(47%)が高いものとなっているが、いずれも「キャリア教育の意味を含め実施」しているというのはいずれも一部に過ぎず、最も高かった「『将来の夢』作文」でも7%であった。

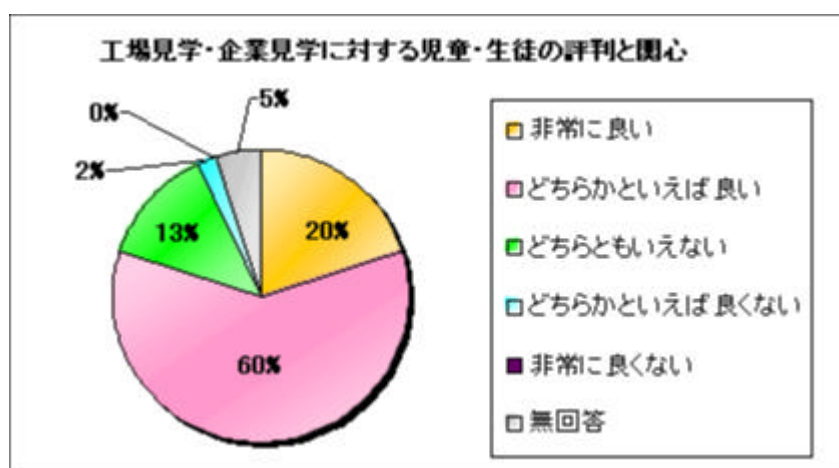
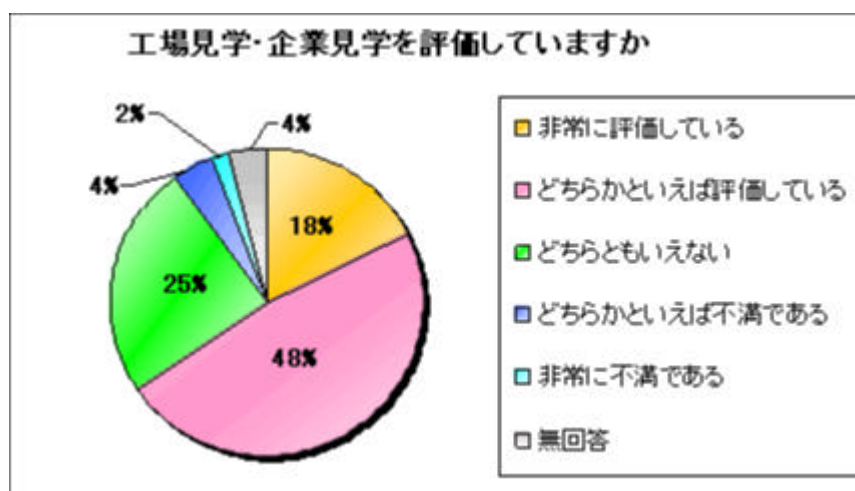
中学校の先生からの回答となると、「工場見学」(34%)の実施が小学校に比べ少なくなり、その代わりに「企業での勤労体験学習」(78%)が高くなる。また、小学校に比べてプログラムの内容もキャリア教育に結び付けたものが増えており、「企業での勤労体験学習」「インターネットなどでの職業調べ学習」「商店街での勤労体験学習」などについては、約3割が「キャリア教育の意味を含め実施している」と回答している。

これが高校になると時間が限られるということからか、プログラムを実施することが少なくな



り、最も多い『『将来の夢』作文』でも66%にとどまっている。ただし、そんな忙しい合間を縫って実施されるプログラムは、「キャリア教育の意味を含め実施」しているというものが多く、「キャリア教育関連資料による座学」、「企業での勤労体験学習」、「経営者、技術者など企業人による講演」などのプログラムは、キャリア教育に結び付けることを前提に行われることが多いようである。

**Q11 工場見学や企業見学の実施について(Q10で「工場見学」「企業見学」を実施していると回答した人のみ)**



工場見学や企業見学を実際に行ってみた上での評価は、「非常に評価している」18%と「どちらかといえば評価している」48%で、その合計は66%。「どちらともいえない」との回答も25%あったが、プログラムに不満を感じたという回答は少なかったことから、概ね満足できる内容になっているようである。評価しているという理由としては、「大人が真剣に働く姿は、仕事内容に関わらず、子どもたちにも十分訴える力を持っている」「学校で体験できないことを見たり聞いたりできるので評価できる」などがあがった。

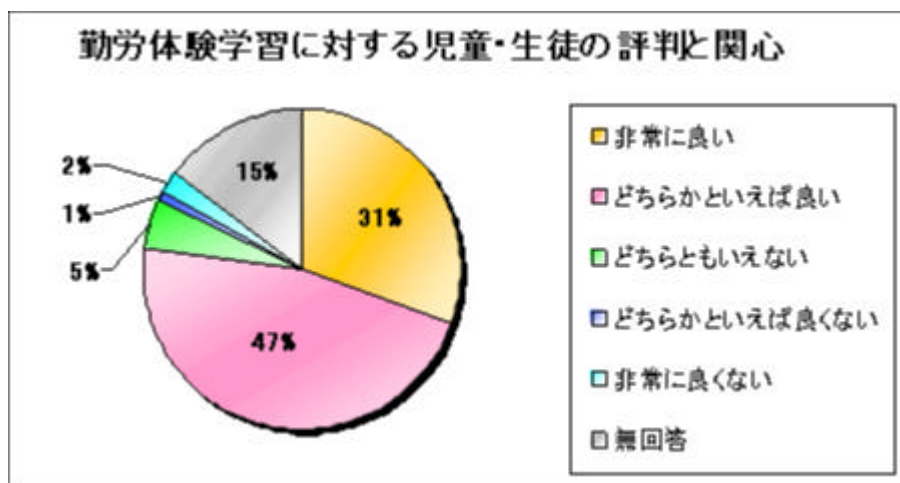
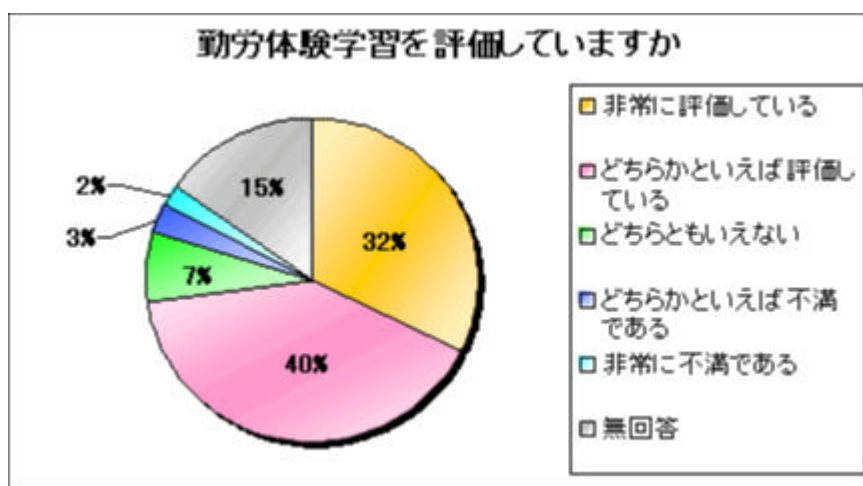
児童・生徒の評判と関心も「非常に良い」(20%)と「どちらかといえば良い」(60%)の合



計が 80%となり、「校外学習の機会が少ないため、興味関心はおのずと高まる傾向にある」などの理由があげられているように、多くの児童・生徒の関心が寄せられるプログラムであることが分かる。ただし、高等学校になると「どちらともいえない」との回答が 25%となり、年齢が上がると、工場や企業を見学することへの興味が多少薄れていることがうかがえる。

この工場見学・企業見学の実施における最大の課題は、受け入れ先企業を見つけることが難しいことにある。また、無計画に訪問しても、子どもに働くことの重要性を伝えられる場面を見せられないこともあるようで、プログラムを生かしていくためには、学校と企業が綿密に打ち合わせ連携を深めていくことが重要と考えられる。

**Q12 勤労体験学習の実施について（Q10 で「勤労体験学習」を実施していると回答した人のみ）**



実際に「勤労体験学習」のプログラムを実施した先生からの回答では、「非常に評価している」との回答が 117 件中 38 件で、全体の約 3 分の 1 にあたる。これに「どちらかといえば評価している」と回答した 40%を合わせると 72%となり、かなり高い評価が得られるプログラムだということがうかがえる。評価できる理由としては、「子どもたちの意欲が高まっている」「職業がど

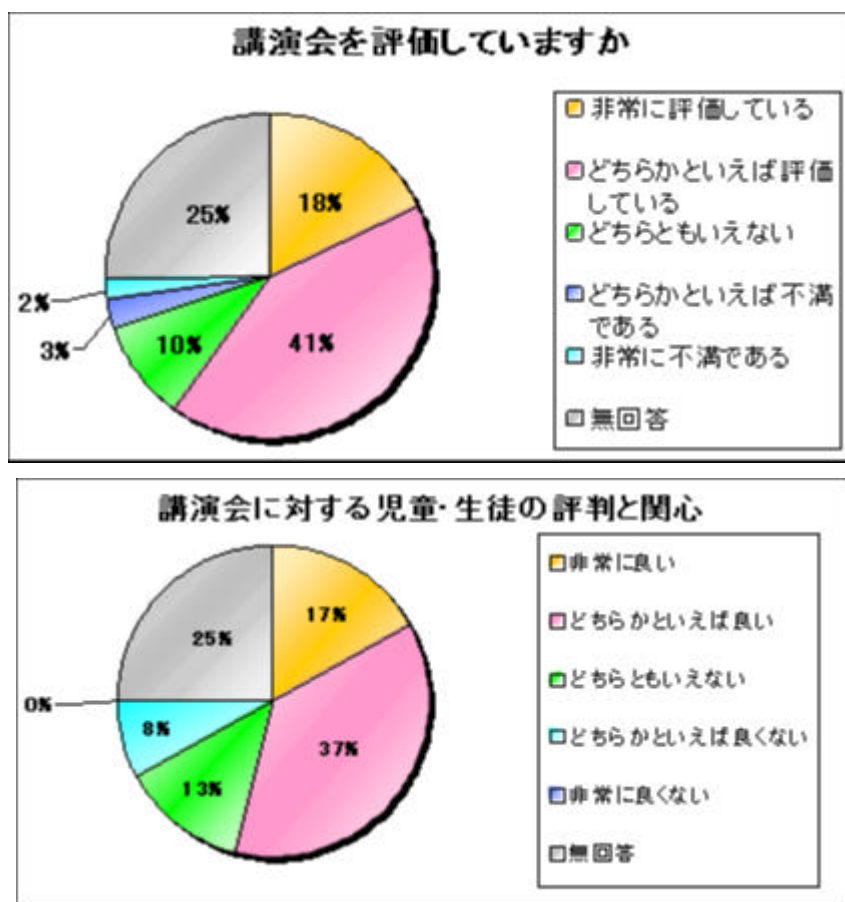




ういうものかを知る良い体験になっている」など、実際に働くという貴重な体験が子どもの意識変化を生み出せるということがあげられていた。

「児童・生徒」の評判と関心となると、「どちらかといえば良い」との回答が最も多く、全体の半数近くとなる 47%。「非常に良い」とした回答も 31%に上っている。このように勤労体験学習をやって良かったとする生徒が多かったという反面、高等学校では「非常に良くない」との回答も 8%あり、勤労体験学習の実施する意義について理解できなかったり、勤労体験を面倒くさいと考える生徒も一部にはいるようだ。

**Q13 講演会の実施について (Q10 で「講演会」を実施していると回答した人のみ)**



講演会の実施においては、校種に関わらず約 40%が「どちらかといえば評価している」と回答している。ただし、小学校においては「非常に評価している」との回答が7%と少なく、その半数近くにあたる 46%が無回答となっている。中学校と高等学校は 24%が「非常に評価している」と回答しているが、高等学校では「どちらかといえば不満である」「非常に不満である」との回答も、それぞれ7%ずつ寄せられている。講演会では、誰を呼んでどんな話をしてもらったかにより評価が異なるようで、「OBによる話が聞けるので、生徒にとっては貴重な経験となる」「スポーツ選手を呼んだ時などは、自分の夢は努力次第で実現できることを知らせることができ

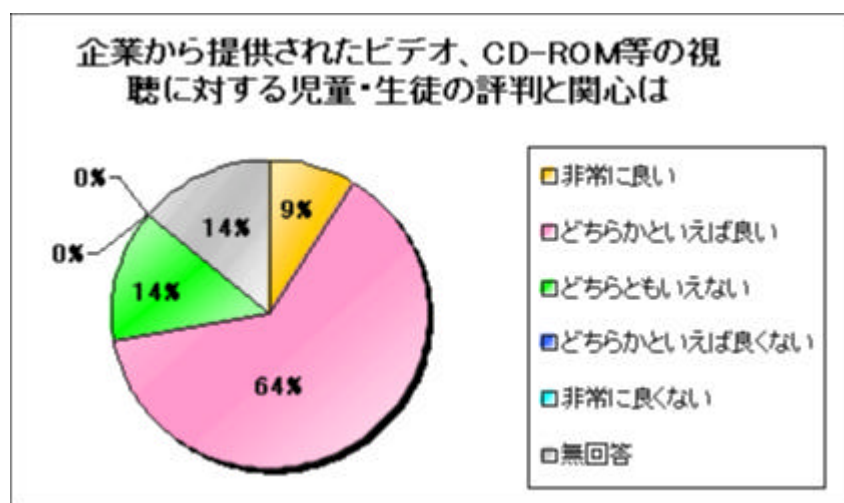
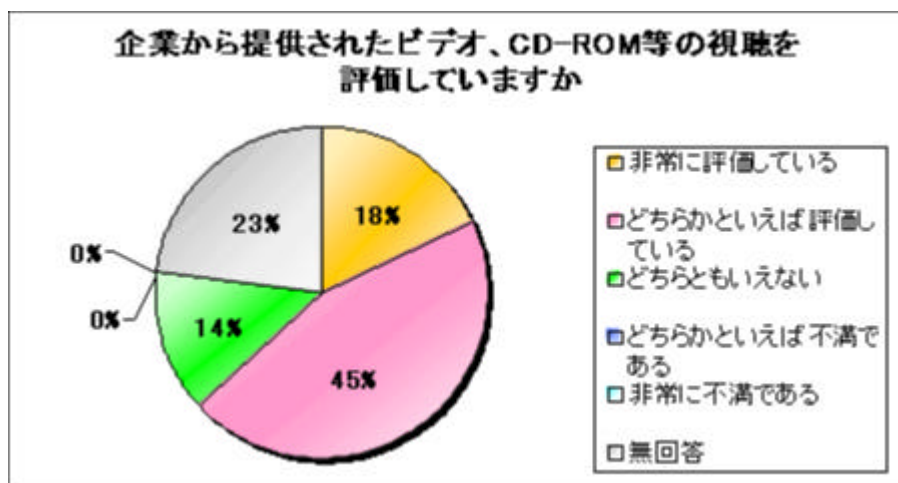


た」などの回答がある一方、「話が子ども向けでなくわかりにくい」「講演の内容が生徒の意識にマッチングしていない」との回答もあった。

講演会の実施に際して、児童・生徒の評判と関心については、「非常に良い」(17%)と「どちらかといえば良い」(37%)という回答で全体の半数を占める。「非常に良くない」との回答は1件も無かったが、「どちらかといえば良くない」との回答は全体で8%、高等学校からの回答になると17%にもなった。自分にとって興味のある内容ならば、しっかりと話を聞いているが、興味が持てないと退屈する生徒も多いようである。

学校の先生が講師に求めるものとしては、大人に話す感覚で講演するのではなく、児童・生徒に合わせた内容と話し方で、子どもの興味を引き付けてほしいとしている。

**Q14 企業から提供されたビデオ、CD-ROM等の視聴の実施について(Q10で「企業から提供されたビデオ、CD-ROM等の視聴」を実施していると回答した人のみ)**



どのような内容のビデオやCD-ROMを視聴させているかを聞いたところ、環境関連のものや、製品のできるまでや流通を紹介したもの、盲導犬の働きなどとなった。こうしたプログラムの評

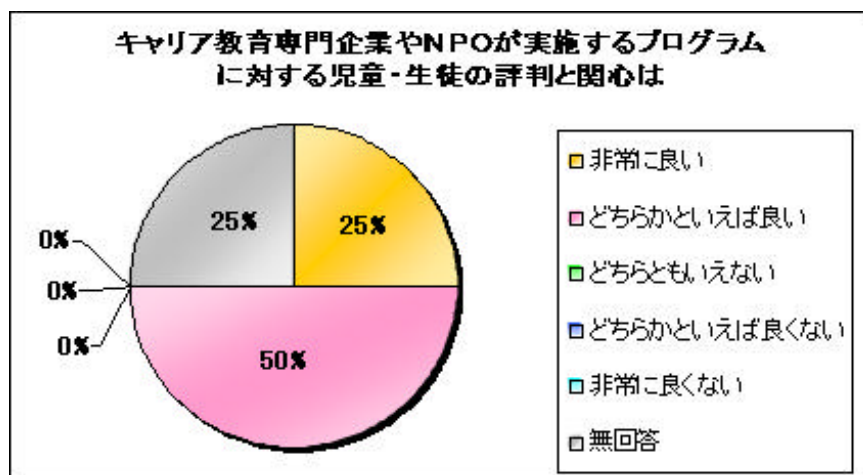
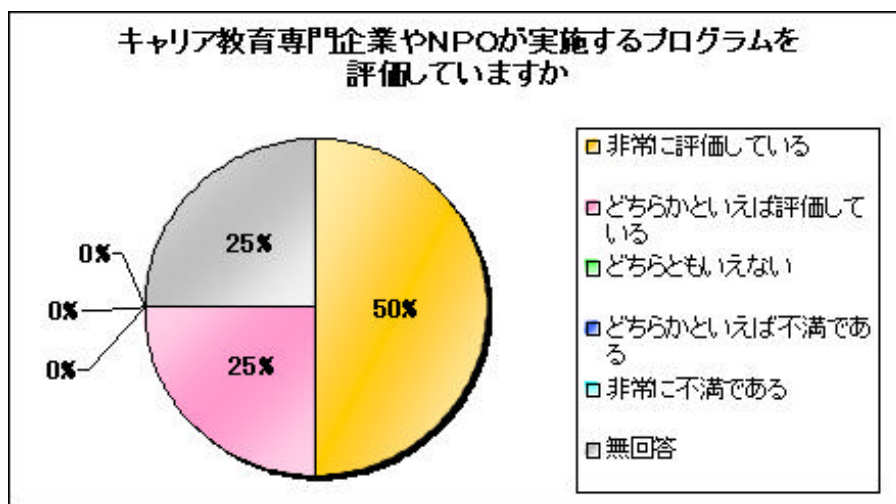




価については、「非常に評価している」が18%、「どちらかといえば評価している」が45%となり、工場見学の事前学習としてビデオを見たりするなど、有効な使われ方がされているようである。

児童・生徒の評判と関心については、64%が「どちらかといえば良い」と回答しており、「どちらかといえば良くない」「非常に良くない」との回答は1件も無かった。児童・生徒の興味を引くための教材として、ビデオやCD-ROMは、かなり有効なようであり、アニメや映像に対する、子どもの関心の高さがうかがえる。ただ、同じ教材を全学年で共通して使うことが多いので、学年別に使える教材がほしいとの要望もあった。

**Q15 キャリア教育専門企業やNPOが実施するプログラム実施について(Q10で「キャリア教育専門企業やNPOが実施するプログラム」を実施していると回答した人のみ)**



「キャリア教育専門企業やNPOが実施するプログラム」を実際に行ったのは、小学校1件、中学校1件、高等学校2件の合計4件で、回答数自体が少なかったことから、このデータだけで判断するのは多少無理があるかもしれないが、実際に行ってみての評価に関しては、「非常に評価している」が2件、「どちらかと言えば評価している」が1件、「無回答」が1件で、その評価



は極めて高い。また、児童・生徒の評判と関心も、「非常に良い」1件、「どちらかといえば良い」2件、「無回答」1件で、概ね好評だったようである。こうしたことから、現時点では実施している学校は少ないが、これだけ評価の高いものならば、今後導入が進んでいくプログラムになるのではと考えられる。

#### Q16 キャリア教育に関して日頃から感じていることは？（自由記述）

今回のアンケートに回答してもらった先生方に、キャリア教育に対してどのような考えを持っているか、その思うところを記述していただいた。その中で目立った意見としては、学校の力だけでキャリア教育を進めていくには無理があるということ。企業見学や勤労体験学習を実施したくても、受け入れ先企業を探すのも大変なことから、行政が働きかけることで受け入れ先を確保してほしいという意見も出ている。また、学校にキャリア教育の実施を望むなら、ただ政策を出すだけでなく、しっかりと予算措置をしてほしいとの意見もある。さらには教育現場の人手不足から、「人員を全て学校職員で担当するには無理があるので、適切な職員を追加するか、専門のアシスタントの設置を希望する」という意見も見られた。

そして、フリーターが増加し、若者の職業観の低下が見られる中、早い時期からのキャリア教育は必要だとする意見も多く、「小学生の時から正しい職業観や労働に対する意欲付けを行っていくことが大切」、「放っておくと生徒はアルバイト先に就職したり、社会を直視せずにフリーターになってしまう」など、受け持つ子どもたちの将来を危惧する先生の姿が、そこからは見て取れる。

しかし、キャリア教育が、これまで学校で行われていなかったプログラムであることから、改善すべき点も数多く残されているようで、中でも「意識してNPOやNGOと生徒たちとの出会いの機会を学校は作っていくべき」、「企業と学校側の間に入る組織がほしい」など、企業やNPOとの連携が必要だとする意見は多い。さらに、まだプログラムの内容が希薄であったり、一過性のものであったりすることから、しっかりと時間を確保して内容を充実すべきとの意見もあがっている。